

令和5年度 学校図書館活用推進事業実践報告

新潟市立竹尾小学校

教諭 太田 真美

司書 村上美紀子

実践のねらい

一人に一台端末が配付され、児童がデジタルデータも扱えるようになった。それにより、本や新聞などと同じくデジタルデータも情報源のひとつとなった。端末を用いてネット検索で多くの情報を得ることができるが、デジタルの情報だけで十分ということではない。情報活用能力の育成のためには、児童が必要に応じて情報を使い分け自分の考えを広げ深める力を培うことができる環境が必要である。そのために「図書館はデジタルと紙面の両方の情報を収集して提供し、情報活用能力の育成に役立つ場として機能させたい」と考えた。

1 「学習センター」として

(1) 学習単元に合わせた資料情報の提供・支援の工夫

- ・児童自らが必要な情報を選択できるように、本、新聞記事、Webサイトをセットで提供することにした。
- ・新聞記事は「ロイロノート・スクール」の資料箱を使い、デジタルデータで提供した。事前に各学年の調べ学習のキーワードをまとめ、適した記事をデジタルデータでストックしておいた。参考文献を記録しやすいように、記事タイトルは「新聞名+日付+見出し語」とした。年度内の利用とすることで朝日小学生新聞社の承諾を得た。
- ・情報元の信頼性の高いWebサイトを「ロイロノート・スクール」のWebカードを連結して紹介した。授業の効率化、時間の有効利用に有効だと考えた。

(2) 授業での実践 【6年生国語単元「私たちにできること」テーマ：SDGs】

①学校図書館活用を通して身に付けさせたい力

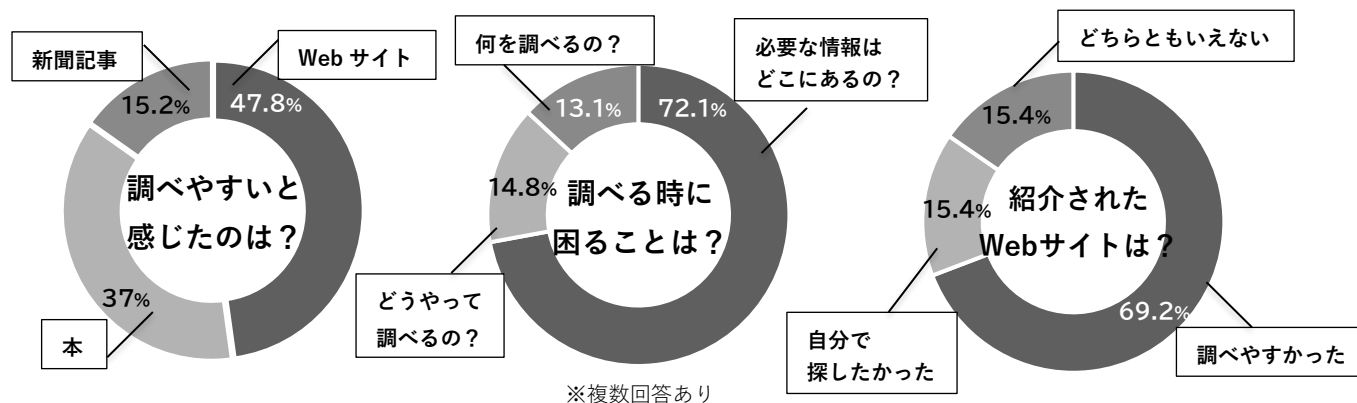
「調べるテーマに適した資料を選択し、必要な情報を見つけて活用する力」

②主な学習の流れ（全10時間）

学習の流れ	情報活用	司書の役割
【課題の設定】 グループで調べたいことを決める。	<ul style="list-style-type: none"> 導入は図書館で教諭が本を読み聞かせ、世界だけでなく身近にもある困り事の解決に向けて自分たちができることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館でT Tの T2 として参加する。学習の見通しを担任と一緒に立てる。 SDGs に関する資料情報の提供（本、新聞記事、Web サイト）をする。
【情報の収集】 【整理・分析】 個人で情報を収集した後、思考ツールを用いて、グループで共有する。構成を考えて提案文書を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を Y チャートで情報源別に振り分けた後、グループで共有する。 クラゲチャートで情報を整理し、根拠をもとに提案内容を考える。 	調べたいテーマにより適した資料から調べ始めること、複数の情報源に目を通すことをアドバイスする。
【まとめ・表現】 提案を全校に見てもらう	<ul style="list-style-type: none"> 学びの作成物を図書館に展示する。 	



③授業後の児童へのアンケート結果と考察



身近で手軽であるという面から Web サイトをしてみようという行動につながっていたようだ。個人での情報収集の際に Web サイトでしか調べていない児童が複数いた。複数の資料情報から必要な情報を見つけることに難しいと感じている様子が見られた。一方で、司書が紹介した Web サイトは「調べやすい」と回答した児童が約 7 割いたことから、支援として有効であった。

また、グループで思考ツールを用い Y チャートを共有し相互交流を促したり、クラゲチャートで根拠を考えさせたりした。それにより、それぞれの情報源から探した情報の違いに気付かせることができた。

2 「情報センター」として

(1) 学年に応じた情報資源活用の説明（国語教科書に準拠）

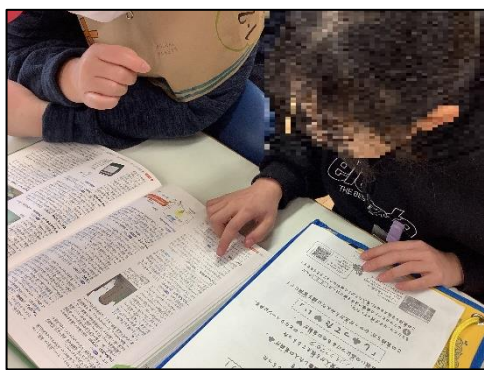
1年生	図書館のきまり	4年生	・図書ラベルの見方 ・さまざまな資料（雑誌、音声資料、郷土資料） ・百科事典の使い方
2年生	本のなかまわけ	5年生	日本十進分類法
3年生	本の分類	6年生	さまざまな資料の特徴（本、新聞、インターネット）

(2) 百科事典を身近にする「謎解きゲーム」の実施

百科事典には、「簡潔な定義と解説文から基礎的な知識を得ることができる」という特徴がある。そのため、調べたい情報も明確になり発展的に調べることができる。このことから低学年時から百科事典に親しませておきたいと考えた。「児童が進んで百科事典のページを開いてみることを目的に、読書週間で『総合百科事典ポプラディア』を使って「謎解きゲーム」を開催した。詳細はポプラ社のサイトを参照されたい。

(<https://kodomottolab.poplar.co.jp/hello-poplardia/hyakka-oh/asobou-3rd/nazotoki2022ver/>)

実施後には、休み時間に『ポプラディア』をめくる低学年児童の姿が見られた。



(3) 相関索引一覧「キーワードくん」の掲示 【中学校区での連携の取り組み】

分類理解の手助けとして、主題を言葉からたどって分類記号を探すための一覧を作成した。分類から内容を示す通常表示とは逆の仕掛けをすることで、分類のしくみに気付かせたいと考えた。学習のキーワードをメインに内容は各学校で決めることとした。

キーワードくん		
さが探しているテーマの本は、ここだよ		
あ	伝統工芸	750冊
あそび	790冊	伝統文化
SDGs	330冊	点字
か	統計	350冊
環境	519冊	動物
菊	620冊	な
ことわざ	814冊	年鑑
米	610冊	ノンフィクション
昆虫	486冊	は
*		911冊

3 実践の成果と課題

授業実践では本から調べる際に目次や索引を使わずにページをめくり始める児童、Webサイトでしか調べない児童など本から調べることに慣れていない様子が見られ、情報収集に時間がかかっていた。しかし、情報を分析し自分が身近でできることの提案を考える時、もう一度本に立ち戻って調べる児童の姿も見られたことは成果の一つである。

指導の振り返りとして、それぞれの情報源のよさを再確認できた。「新聞」と「Webサイト」は最新の情報や事柄を調べるには便利な情報源であり、「本」は調べたいことの全体像が見やすいことから必要な情報を見つけやすい情報源であるということである。そして、単元一つでは情報活用能力を養うことが難しく、情報活用教育に全校で取り組むことが必要だと感じた。各学年での取組を積み重ねていくことで、成果が出てくるだろう。

4 参考文献

- ・『どう使う？学校図書館と1人1台端末 はじめの一步』全国学校図書館協議会 2022
- ・「百科事典を活用した指導の充実について」ポプラ社こどもの学びグループ 2023
(令和5年度第1回学校司書実務研修「百科事典の活用」配付資料より)